

病院と製薬企業の歴史 —ヨーロッパと日本の経験から



ローザンヌ州立病院, 1897年

今回の適塾講座では、医療活動の重要な場である病院と医療技術革新の原動力の一つである製薬企業を取り上げます。近代ヨーロッパと日本の経験をもとにして、病院と製薬企業の歴史を主に経営史の視角から検討いたします。

近代の病院はそれ自体革新を続ける組織体ですが、さまざまな経営革新を遂げて現在にいたりました。今回は、19世紀後半から20世紀前半におけるスイスの病院が医療技術の進歩とともにどのように変化し、その結果、医療市場にいかなる変貌をもたらしたかを考えます。

また戦後日本における外資系製薬企業の活動に焦点を当て、わが国の製薬企業のあり方にも大きな影響を与えた外資系製薬企業の革新的活動、研究開発のあり方を分析します。続いて1980年代以降の世界のワクチン産業の衰退と再生というダイナミックな過程を、日本を中心に比較史的に考察します。



講座日時等

第1回	9月21日(土) 14:00~15:30	講義題目 【スイスの病院史】 講師 ピエール=イヴ・ドンゼ 京都大学白眉センター准教授
第2回	9月28日(土) 14:00~15:30	講義題目 【戦後の外資系製薬企業-日本事業の展開プロセス】 講師 竹内 竜介 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授
第3回	10月5日(土) 14:00~15:30	講義題目 【日本からみた1980年代以降の世界のワクチン産業の衰退と再生】 講師 ジュリア・ヨング 法政大学経済学部教授

コーディネーター 澤井 実 大阪大学大学院経済学研究科教授

募集要項

- 定員** 50名(申込先着順)
- 受講料** 【一般】4,500円(3回分) ※1回1,500円
【適塾記念会会員】(新規入会者を含む)
3,000円(3回分) ※1回1,000円
- 修了証書** 全3回受講された方には、修了証書を交付いたします。
- 申込方法** ①裏面「参加申込書」の記載事項をご記入のうえ、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。受付確認後、受講決定の連絡をいたします。
締め切り：9月13日(金)17:00必着
(ただし、定員に達した時点で、締め切らせていただきます。)
- ②受講決定の連絡の後、受講料を下記の銀行口座にお振り込みください。なお、振込手数料は、ご本人様負担とさせていただきます。
- 口座名** 三菱東京UFJ銀行 茨木支店 普通預金 1502217
- 口座名義** オオサカダイガク シャガクレンケイカ
大阪大学 社会学連携課

会場



大阪大学中之島センター
5階 講義室507
大阪市北区中之島4丁目
3番53号
TEL 06-6444-2100

会場までのアクセス

【電車の場合】

阪神本線「福島」駅 徒歩約9分
JR東西線「新福島」駅 徒歩約9分
京阪中之島線
「渡辺橋」駅または「中之島」駅 徒歩約5分
地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅 徒歩約10分

【バスの場合】

大阪市バス 大阪駅前バスターミナルより
(53系統)
→中之島四丁目(旧玉江橋)下車 徒歩1分
(75系統)
→田裏橋 下車 徒歩2分

お申込み・お問合せ先



大阪大学
適塾記念センター

適塾記念会事務局 URL : <http://www.tekijuku.osaka-u.ac.jp>
住所/〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館内 大阪大学適塾記念センター
電話/06-6850-5016 FAX 06-6850-5015 E-mail kinenkai@tekijuku.osaka-u.ac.jp

各講座の内容

第1回 9月21日(土) 「スイスの病院史」
14:00~15:30

内容 ■ 19世紀後半から20世紀前半にかけて、スイスの病院は、慈善事業から、民間企業に近い形で運営される機関へと、大きな変化を経験した。19世紀後半に出現する新しい医療技術、とりわけ外科技術及び放射線装置の進歩は、この変化において重要な役割を果たした。この新しいインフラストラクチャーによって、病院の経営は改革された。また、各病院の発展の結果として、医療市場において病院間の競争が発生した。競争状況を緩和するため、各州府は1930年代以降医療市場へ介入するようになった。

講師紹介 ■ **ピエール＝イヴ・ドンゼ** 京都大学白眉センター准教授
1973年生。ヌーシャテル大学(人文学、スイス)PhD。病院の経営史、医療における技術移転が専門。日欧米の比較経済史・経営史にも関心がある。

第2回 9月28日(土) 「戦後の外資系製薬企業—日本事業の展開プロセス」
14:00~15:30

内容 ■ 現在、日本において多くの外資系企業が事業活動を展開しております。日本の医薬品業界においても、多くの外資系企業が参入し、事業を展開してきました。外資系製薬企業は研究開発力など技術力に優れ、最先端の医薬品を日本に導入することで日本事業を開始しました。ところが、そうした技術力に優れた外資系製薬企業でも、日本市場での持続的な成長を果たすためには様々な企業努力が必要でした。本講義では、戦後日本に参入した外資系製薬企業を取り上げ、それらの日本事業の展開プロセスを振り返ることで、日本市場で持続的な成長を果たすための企業努力について考えてみたいと思います。

講師紹介 ■ **竹内 竜介** 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授
1980年生。2010年神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。多国籍企業の歴史的な分析が専門。論文に、「戦後、多国籍製薬企業の在日経営—社会的ネットワークとの連携に注目して—」(経営史学)(2012年)など。

第3回 10月5日(土) 「日本からみた1980年代以降の世界のワクチン産業の衰退と再生」
14:00~15:30

内容 ■ 最近、癌などの難病に予防効果があるワクチンが話題になり、「万病薬」として、期待が高まってきました。現在、ワクチンは、国内外の製薬企業にとって、成長分野とみなされ、積極的な研究開発が進められています。しかしながら、1980年代まで遡りますと、ワクチン製造は、衰退産業になっていました。とくに米国では薬害問題(副反応)、訴訟問題などにより、ワクチンメーカーは相次ぎ撤退し、公衆衛生行政側も危機的な状況に陥っていました。一方、フランスのワクチンメーカーは、その状況をチャンスととらえ、新製品開発に取り組むと同時にグローバル化を図ろうとしました。世界のワクチン産業の激変の時代において、日本はどうなったのでしょうか?1980年代以降の変化を検討しながら、日本のワクチン製造の過去の状況、さらに今後の行方を一緒に考えたいと思います。

講師紹介 ■ **ジュリア・ヨング** 法政大学経済学部教授
1963年米国生。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了(学術博士)。専門は、国際関係経営史。明治時代以降の日本の製薬産業史および産業発展に関わる医療行政に深く関心をもつ。2011年-2012年は、米国およびフランスに出かけ、ワクチン産業の国際比較研究を行ってきた。

「適塾記念会」入会のご案内

適塾記念会は、1952年に創立され、その主な目的は、緒方洪庵先生や適塾門下生の業績を研究・顕彰すること、そして大阪における学問・研究の伝統を明らかにし、その上に立つ新しい学術・文化の成果を広くお伝えすることにあります。

このような目的のもとに本記念会では、会誌「適塾」、図録「緒方洪庵と適塾」の刊行や適塾門下生調査事業などを行ってまいりました。また、「特別展示」、「適塾講座」及び「適塾記念講演会」を開催し、適塾に関する調査研究の成果を広く一般の方々に公開するとともに、会員の方々に対象とした行事を企画しております。2011年度からは新たに適塾並びに緒方洪庵先生やゆかりの史跡などを巡る「適塾見学会」も実施しております。

ぜひお知り合いの方々をお誘いのうえ、ご入会いただきますようお願い申し上げます。

◎入会されると

会員には「会員証」と会誌「適塾」(年刊)をお送りします。「会員証」は入会された当該年度(3月末まで)有効で、これをお示しいただければ適塾の参観、「特別展示」の参観が何度でもできます。※大阪大学の学生は、適塾の参観、「特別展示」の参観が無料です(要学生証提示)。また、「適塾記念講演会」「特別展示」「適塾講座」等本会主催行事についてご案内させていただきます。

◎入会されるには

普通会員の会費は、年間1口2,000円で、何口でもお申し込みができます。入会のお申込みは、適塾(TEL:06-6231-1970)または適塾記念会事務局(TEL:06-6850-5016)において受付しております。

適塾講座参加申込書

下に必要内容をご記入の上、FAXにて**06-6850-5015**まで送信ください。

フリガナ				
氏名	<input type="checkbox"/> 適塾記念会会員 <input type="checkbox"/> 非会員			
住所	〒			
電話番号		メールアドレス		
受講希望の講義に ○印をご記入ください	全3回を受講する <input type="checkbox"/>	第1回を受講する <input type="checkbox"/>	第2回を受講する <input type="checkbox"/>	第3回を受講する <input type="checkbox"/>

ご記入いただいた個人情報につきましては、本講座の参加受付の目的以外に使用することはありません。